

番号	4	弔魂 碣 ^{けつ}		
所在地	佐賀市川副町小々森 6 7 1 光楽寺			
災害別	明治 2 6 年（ 1 8 9 3 ） 台風 暴風			
目的別	慰 霊		建立年	大正 5 年
特記事項	（参考）暴風遭難溺死者之碑（長洲町）			



佐賀市川副町小々森の広江地区にある光楽寺に建てられている弔魂^{けつ} 碣。碣とは、円形の石碑、墓碑のこと（広辞苑）。



この碑は、明治26年10月14日、佐賀を襲った台風（己の年の風あるいは北風大風とも呼ばれている）により遭難した西川副村の漁師たちの供養塔である。

この台風は有明海に突然の暴風をもたらし、「佐賀県災異誌」（1964年 佐賀県防災課発行）によると、出漁していた漁民のうち、漂流人数823人、うち生存者651人、溺死者46人、生死不明128人、西川副村では死者・行方不明32人という惨事となった。諸富町史にはこの時の漁師の追想談が載せられており、転覆した船につかまり、長崎県の湯江まで流され助けられたとの記述がある。

碑文は漢文で記されており、判読不明な箇所もあるが、「明治廿六年十月十四日大風爲口口最甚而人之口生

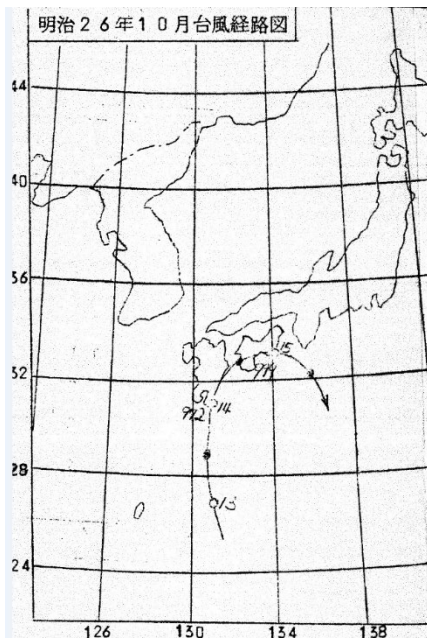


舟子漁夫最多〇〇西川副村之溺死者獲屍五不獲屍二十七凡三十二人臆慘〇哉〇是有志諸氏捐〇立碣表其氏名以弔幽竟 銘曰 嗚呼丈夫 失身〇職命乎屍乎 蒼天罔極」などと記され、合わせて遭難者の氏名が刻まれている。

この碑は大正5年に建立され、その後光楽寺に移転されたとのことで、手前の花台正面には、「昭和拾一年十一月吉日 四拾三年忌祭 廣江鯪鯿仲間」とある。

なお、同じ日、熊本県長洲町では、漁船190艘、380名あまりの漁民が、アミ漁に出漁していたところ、急に暴風雨となり、ほとんどの船が沈没、120名の死者を出した。

このときの出来事を後世に伝え、犠牲者の冥福を祈るため、「暴風遭難溺死者之碑」が建てられているので参考までに掲載する。なお、碑は、昭和42年に再建されたもの。



台風経路図 「佐賀県災異誌」より



国土地理院電子国土 Web

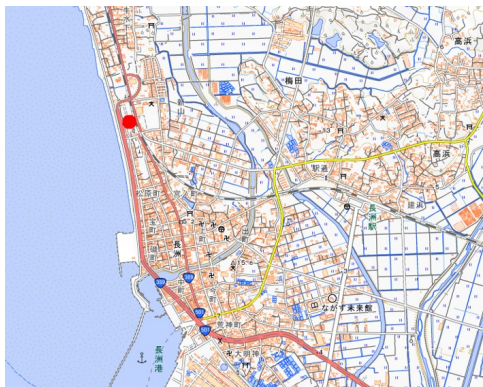
(参考) 暴風遭難溺死者之碑

熊本県長洲町大字長洲



「長洲町指定文化財（昭和五十一年指定 長洲遭難の碑（明治二十六年十月十四日の海難） 当時の長洲町はおよそ千三百戸のうち八百戸余りは漁業でした。十月からは漬けアミの獲れる時期です。十月十二日に出漁した数艘の船がアミを沢山獲って帰港しました。それで翌日、十三日は少々風がありましたが、四王子宮の祭（十五日）の前々日でもあったので多くの船（百九十艘、三百八十名余り）が出漁しました。

二里ばかり沖合いで操業中、十四日の午前一時頃から北西の風が急に強まり暴風雨となりました。そのため長洲港に引き返そうとしましたが、強烈な風のため、ほとんどの船が沈没しました。漁民も波に飲まれて、助かったのは、五十名余りでした。



国土地理院電子国土Web

この碑には、この悲しい出来事を後世に伝えるためと、死者の冥福を祈るため三百二十名の氏名が刻んであります。

また、上天草市大矢野町の串地区と白涛地区には、漂着した遺体を地元の人たちが丁寧に葬ったくださった碑や墓があります。

長洲町教育委員会 長洲町文化財保護委員会」
（以上、説明版より）